

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 18 年 6 月 15 日 (2006.6.15)

【公表番号】特表 2005-525884(P2005-525884A)
 【公表日】平成 17 年 9 月 2 日 (2005.9.2)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-034
 【出願番号】特願 2004-505146(P2004-505146)
 【国際特許分類】

A 6 1 M 25/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 25/00 4 1 0 F

A 6 1 M 25/00 4 1 0 H

A 6 1 M 25/00 4 1 0 J

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 4 月 21 日 (2006.4.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

バルーンカテーテルであって、
 遠位部分と近位部分を有するカテーテルと、
 前記カテーテルの前記遠位部分に取り付けられたバルーンと、
 を備え、

前記カテーテルの前記近位部分が、前記バルーンを膨張又は収縮させるための膨張用装置に連結されるようになり、

前記バルーンの膨張又は収縮の結果として該バルーン内に生じた何らかの軸方向の力が該バルーンから前記カテーテルに伝達されないように、該バルーンが 1 つの位置だけで該カテーテルに固定的に連結されており、

前記バルーンが、滑り接合部によって第 2 の位置で前記カテーテルに連結されたことを特徴とするバルーンカテーテル。

【請求項 2】

前記バルーンが、膨張時の第 1 の軸方向長さと、収縮時の第 2 の軸方向長さを有し、前記第 1 の軸方向長さが前記第 2 の軸方向長さより短いことを特徴とする請求項 1 に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 3】

前記バルーンが、非順応性材料又は半剛性材料からなることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 4】

前記バルーンが、収縮時に前記バルーンの半径方向の圧縮を容易にするように、該バルーンの表面内に軸方向に配向された折り目又はひだを備えることを特徴とする請求項 3 に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 5】

前記カテーテルの前記遠位部分が前記バルーンの内容積を通して延び、該カテーテルの該遠位部分は該バルーンの前記内容積内に配置された孔を備え、該内容積が膨張用装置と流体連通状態となることが可能になったことを特徴とする前記請求項のいずれかに記載の

バルーンカテーテル。

【請求項 6】

前記バルーンを膨張又は収縮するための膨張用装置をさらに備え、前記膨張用装置が、前記カテーテルの前記近位部分に取り付けられたことを特徴とする前記請求項のいずれかに記載のバルーンカテーテル。

【請求項 7】

前記膨張用装置が注射器を含むことを特徴とする請求項 6 に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 8】

前記カテーテルが可撓性部分及び剛性部分を備え、前記可撓性部分が前記剛性部分の近位方向に配置されたことを特徴とする前記請求項のいずれかに記載のバルーンカテーテル。

【請求項 9】

前記剛性部分が、実質的に前記バルーンの内容積内に配置されたことを特徴とする請求項 8 に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 10】

前記バルーンが第 1 の端部及び第 2 の端部を備え、前記第 1 の端部は第 1 の位置で前記カテーテルに固定的に連結され、前記第 2 の端部は前記滑り接合部によって前記第 2 の位置で該カテーテルに連結されたことを特徴とする請求項 1 に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 11】

前記バルーンが近位端及び遠位端を備え、該バルーンの前記近位端は、前記カテーテルの遠位端から近位方向にある第 1 の位置で該カテーテルに固定的に連結され、該バルーンの前記遠位端は、前記滑り接合部によって該カテーテルの該遠位端に連結されたことを特徴とする請求項 1 に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 12】

前記バルーンが近位端及び遠位端を備え、該バルーンの前記近位端は、前記カテーテルの第 1 の区分の遠位端に固定的に連結され、該バルーンの前記遠位端は、該カテーテルの第 2 の区分の遠位端に連結され、前記第 2 の区分が前記第 1 の区分から切り離され、該第 1 及び第 2 の区分化部分が互いに対して軸方向に移動することが可能になり、該カテーテルの該第 2 の区分の近位端が、前記滑り接合部によって該バルーンの該近位端に連結されたことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 9 に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 13】

前記カテーテルの前記第 2 の区分が、中実の断面を備えることを特徴とする請求項 12 に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 14】

バルーンカテーテルであって、
遠位部分と近位部分を有するカテーテルと、
前記カテーテルの前記遠位部分に取り付けられたバルーンと、
を備え、
前記カテーテルの前記近位部分が、前記バルーンを膨張又は収縮させるための膨張用装置に連結されるようになり、
前記バルーンの膨張又は収縮の結果として該バルーン内に生じた何らかの軸方向の力が該バルーンから前記カテーテルに伝達されないように、該バルーンが 1 つの位置だけで該カテーテルに固定的に連結されており、
前記バルーンが近位端及び遠位端を備え、該バルーンの前記近位端は、前記カテーテルの近位区分に固定的に連結され、該バルーンの前記遠位端は、該カテーテルの遠位区分に連結され、前記近位区分は該バルーンの内容積内に配置された遠位端部分を有し、前記遠位区分は該バルーンの前記内容積内に配置された近位端部分を有し、前記近位区分の前記遠位端部分は、該遠位区分の前記近位端部分と摺動係合状態にあり、該近位区分及び該遠位区分が互いに対して軸方向に移動することが可能になったことを特徴とするバルーンカ

テーテル。

【請求項 15】

前記近位区分の前記遠位端部分及び前記遠位区分の前記近位端部分が、各々管状の断面を備え、さらに該近位区分の該遠位端部分及び該遠位区分の該近位端部分が、嵌め込み形連結で他方の内径内に嵌合するような大きさにされた外径を有することを特徴とする請求項 14 に記載のバルーンカテーテル。